

北風と太陽から考える男性援助

松本健輔 坊隆史

妻：「この人は子どものためとって、無理矢理学校に連れて行こうとするんですよ。子どもの気持ちが全くわかっていない。」「子どものことを全く考えていないんですよ。思いやりが無いし、無責任なのよ。」

夫：「お前がそうやって甘やかすから子どもがだめになるんだ。一生俺たちが面倒をみていけるわけじゃないんだぞ」

1、北風と太陽

北風と太陽の話をご存知だろうか。誰もが一度は聞いたことのあるイソップ寓話の一つである。ご存知のように、北風と太陽が旅人の上着を脱がそうと競争をする。北風が力いっぱい吹いても、旅人はかえって上着を押しやしてしまう。逆に太陽が燦々と照りつけると、旅人は自ら上着を脱ぎ、結果太陽の勝ちとなる。その話から冷たい態度をしたり強引になにかを変えようとしたりするのではなく、温かい態度で接することで人は変化をしてくれるという意味で使われることが多い。

現実社会でもこの寓話に当てはめることのできる事象は多い。不登校の子どもに登校刺激を与えるべきという北風と、見守るべきという太陽。また、子どもはしかって育てるべきだという北風と、優しく褒めて育てるべきという太陽。夫婦の間も同様である。配偶者の間違いを指摘して直すべきだという北風と、温かく見守る方が変化して行くという太陽。数え上げれば枚挙に暇が無い。

2、男性は北風

北風のコミュニケーションは強引に変化を促す方法だ。一方太陽は温かく見守ること

で変化を期待する方法だ。臨床の場に身を置くと、男性が北風のポジションを取っている場面を本当によく見る（もちろん逆の場合もあるが）。子どもを正しく育てるために過度に叱りつけたり、時にはそれが行き過ぎ、極端な場合、虐待につながる場合もある。夫婦間でも同じだ。妻の愛情が冷めたことを感じると、それが如何に道徳的に間違っているかを夫が説教することをたびたび目にする。先ほどの例のように、子どもが不登校になると父親が力づくで無理矢理子どもを学校に行かせようとすることも多々あると思う。そこで子どもの気持ちを理解していないと夫婦関係が悪化し、夫婦間の問題として私のカウンセリングルームに来所されるパターンもある。

実は北風と太陽の話は上記の話の前にもう1つ勝負をしている。つまり、太陽と北風は実は二回勝負をしているのだ。二回戦目はみなさんご存知の太陽が勝つ勝負。一回目は旅人から帽子を取る勝負で、太陽が燦々と照らしても旅人は帽子をよけいに深くかぶり、北風が力一杯に吹くと帽子が飛び北風の勝ちとなる。二つの勝負を総合して、何事も適切な手段があるとう話になる。

強引に進めることで改善することもある。ただ、上手くいく時はいいのだが、失敗すると力づくでしたことで周りからマイナスの評価を受ける。例えば、近年世間を騒がせている体罰はどうだろうか。体罰は問題である。どんな状況でも暴力が肯定されることはあってはならない。しかし、時に強い指導が必要な場面があるのも事実だ。笑ってすべてを許すことだけでは教育現場は回らない。しかし残念なことに、子どもに対して必要ところで叱ることのできない先生は問題になりにくい、叱る先生は失敗すると大きな問題になる。

他方、家庭でも同じだ。過干渉で子どもに問題が発生した場合、周りから問題視されることはあれ、社会的に表立って問題はなりにくい。一方、子どものためにと手が出ると虐待と言われ、逮捕される場合すらある。

社会は北風を批判する風潮ある。

冒頭の夫婦のやり取りは、よく夫婦カウンセリングで見られるやり取りだ。冒頭の夫婦も、子どものことを一番に考えている。ただ、子どもへの愛情の示し方、教育の仕方が違うのだ。誤解を受けやすい北風だが、本当は太陽と同じ目標を持った同士である。カウンセリングの場でそのことが共有されると、やり方が違うという事実は変わらなくても、夫婦関係は自然と良くなっていく。なぜなら、そこには「思いやりの無さ」とか、「無責任」という言葉の代わりに、「思いが同じである」ということが共有されるから

だ。

3、男性援助を考える

嫌われ者の北風になりやすい男性であるが、その男性を援助する場合、援助者は三つのことを考える必要がある。

一つは北風の行動は批判されやすいということを念頭に置くことだ。社会的に見て間違った行動とされる行動を取りやすい男性ではあるが、それは男性なりの愛情の示し方だったりもする場合がある。行動が間違っていると指摘する前に、そこに至思いを丁寧に扱う必要がある。

二つ目に、男性の問題解決への方法そのものを援助の対象とする必要があるということだ。前述したようにそれは思想ではなく、方法である。子どものためには思い子どもを殴っている父親は子どもを愛していないわけではない。愛しているからこそ殴るのだ。つまり、方法が間違っているのだ。では、変化させる必要のあること、それは方法だけなのだ。

最後に、方法が間違っているだけで、気持ちはあるのだということを知って分かってもらう支援も必要になる。周囲から見た時に、自分と方法の違う男性のことを愛情が無い人、気持ちは無い人と感じやすい。それを支援者は違う視点を提供できるよう工夫する必要があるのだ。

- うまくいっているのなら、変えようとするな。
- もし一度やって、うまくいったのなら、またそれをせよ。
- もしうまくいっていないのであれば、違うことをせよ。

De,hazer と Berg, I. K. らを中心に開発された心理療法であるソリューション・フォーカス・アプローチの中心哲学である。

物事はシンプルに考えたい。北風が間違っているわけではない。それが正しい場合は続けたらいい。でも間違っている場合は、違うことをしたらいい。男性援助者はその援助をしたらいいだけなのだ。